

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	緑化補助制度の充実事業							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	都市施設係	評価票作成者	公園緑地担当係長 後藤明紀
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	緑化	コード	1 2 3
	項	水と緑の環境づくり			単位施策(中)	緑化補助制度の充実	コード	1 2 3 2
					単位施策(小)	緑化補助制度の充実	コード	1 2 3 2 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	補助団体		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	花いっぱい運動、種苗生産事業の補助により地域を花で飾り、都市景観の向上を図る。			
1-5 事務事業の内容	地域を花で飾り、都市景観の向上を図る花いっぱい運動、種苗生産事業を実施する行政区に対し支援を行う。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	地域の花いっぱい運動、種苗生産事業を支援するため、毎年可能な限り補助金を支出。また支出方法としては前渡。	緑化の推進は、都市の温暖化を防ぐ重要な役割を担っており、今後もその重要度は増すことが予想される。		生活の中における緑がやすらぎやうるおいを与えてくれるだけでなく、都市の温暖化を防ぐ有効な手段として考えられている点でも市民ニーズは非常に高いと	
	平成19年度	広く浅くを目指した地域花いっぱい運動への参加を各区に呼びかけ積極的な参加を促した。	補助金削減に伴い事業を撤退希望する区がある。		"	
	平成20年度	"	補助金削減による花いっぱい運動の区域が減少している。		区全体に花いっぱい運動を展開したいが、資金に限りがあり計画通り進まない	
	平成21年度	未参加の区に花いっぱい運動への参加を呼びかけた。	リーダーが不在になり事業を撤退希望する区がある。		生活の中における緑がやすらぎやうるおいを与えてくれるだけでなく、都市の温暖化を防ぐ有効な手段として考えられている点でも市民ニーズは非常に高いと	
	平成22年度	地域花いっぱい運動への参加を各区に呼びかけ、積極的な参加を促した。しかし、予算の削減のため補助金削減をした結果、同運動への参加を撤退希望する区が出てくる等、計画通りに進まなくなってきた。				
	平成23年度	現在、参加している区においては、事業が定着しており運営もスムーズに行われている反面、今後、新たな参加には現状の事務では大きく見込めない。				
	平成24年度	新たに1地区を加え事業を進めた。今まで参加している区においては、例年通り運営がスムーズに行われた。				
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(件)	指標の説明
	花いっぱい運動等補助件数(件)		10(件)	13(件)	花いっぱい運動推進地区を増やしていくことで、市全体の緑化推進を図る。

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	活動実績 a(単位)	8(件)	9(件)	9(件)	9(件)	8(件)	7(件)	8(件)			
	直接事業費 b(千円)	1,060	1,160	1,160	1,100	1,000	700	800			
	人件費 c(千円)	804	801	397	387	376	368	358			
	合計コスト d(b+c)(千円)	1,864	1,961	1,557	1,487	1,376	1,068	1,158			
単位コスト d/a(千円)	1件当たり233	1件当たり218	1件当たり173	1件当たり165	1件当たり172	1件当たり152	1件当たり144	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 直接事業費は、各行政区への補助金の合計。人件費は係総事業費(3人分)の4割の内5%

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(件)	8	9	9	9	8	7	8			
	後期目標値に対する達成度(%)	61.5	69.2	69.2	69.2	61.5	53.8	61.5			

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A	A	A	A	A	A			

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	緑化の推進は都市の温暖化を防ぐためにも非常に重要であり、単発ではなく継続した事業の実施が必要であると認識し	より多くの行政区で花いっぱい運動等を実施していただくよう努めていく。	地域における緑化推進活動が、地域住民の緑化に対する意識や樹木・花に対する管理能力を向上させ、さらには市全体の緑化の推進につながっている。
平成19年度	"	市全域で花いっぱい運動が展開されるようPRに努める。	毎年同一箇所の花壇、プランター等の花植えを場所を替え市全体で花いっぱい運動を展開して行きたい。	
平成20年度	花いっぱい運動に参加している市民が高齢化により人材の確保が困難になっている。	未実施の区に対して積極的に参加を促す。	購入した花苗を使用するだけでなく、種から育てる取組も広がりつつあり、今後に期待が持てる。	
平成21年度	"	市全域で花いっぱい運動が展開されるようPRに努める。	未実施の区への参加を呼びかけた。	
平成22年度	未実施の区に参加を呼びかけたが、補助金の上限が10万円のため参加する区が増加しない。今後も、未実施の区に対して積極的に参加を促す。			
平成23年度	補助金の上限が10万円のため新たな参加がしづらい状況の中、平成23年度は一区が参加の意向があったが、今後も、未実施の区に対して積極的に参加を促す必要がある。			
平成24年度	今年度は、1地区が加わり事業が進んだ。また、今まで参加している地区から補助金の額の増額要望があり、事業の再見直しが必要な時期に来ている。			
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	B	リーダーや参加者を増やす工夫をしながら、事業を実施すること。	
平成22年度	B	制度の意義や必要性を周知することにより、参加区の数の維持・向上を進めること。	
平成23年度	B	制度の意義や必要性を周知することにより、参加区の数の維持・向上を進めること。	
平成24年度	B	事業の目的に照らし、必要な見直しを検討すること	
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			